

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービス よりみち

支援プログラム

作成日

2025年

3月

21日

法人（事業所）理念		従業員に安定した労働環境と学びの機会を等しく保障し、大切にします。 子どもたちが「楽しみに」通所し、「楽しかった」と言って帰ることのできる事業所を目指します。 一人ひとりの子どもを尊重し、大切に支援していく環境は、同じように人格を尊重され、親和的に働くことのできる支援者集団によってのみ達成されると信じます。							
支援方針		一人ひとりの子供の人格と意志を尊重します。 「どのような支援が必要か」ではなく「どのような支援を欲しているか」を考え、遅滞なく実行します。 関係機関と連携し、よりたくさんの支援者が一人ひとりの子どもにかかわっていただけるような環境を整えます。							
営業時間		9時	0分	から	18時	0分	まで	送迎実施の有無	あり
支援内容									
本人支援	健康・生活	「健やかに生きること」は、訓練や練習によって達成されるものではないと考えます。 お手伝いをさせるのではなく、お手伝いをするによる自己有用感を感じられるような声掛けを行います。時間や日付の概念を教え早起きを奨励することよりも、早く起きて通所することで楽しく心地よい時間を感じることを重視します。							
	運動・感覚	子どもに運動をさせて、「できるようにさせる」ことを目標としません。 子どもとともに動き、遊び、楽しむ時間や場を共有します。							
	認知・行動	外界からの刺激を、皮膚や五感を通して感じる機会を保障していきます。 きめられた形を作る練習をするのではなく、自分の好きな素材で好きなものを表現しようとする機会を通じて空間概念の形成につなげるなど、子どもの自発的な活動に立脚します。 皮膚や感覚器官を通じて入った刺激を言語化したりわかりやすい形で子どもに伝えたりすることで、脳の認知の発達につなげます。							
	言語 コミュニケーション	伝達手段の上達（文字を書けるようになる、適切な言葉を選ぶことができる等）を主眼に置かず、「欲求の発露」を安心してできる環境を整えます。 コミュニケーションの成立は受け手が主体となるということを念頭に置き、子どもから発せられたメッセージと、そこで語られないものを注意深く考えて返すことで、コミュニケーションの楽しさを味わえるように支援します。							
	人間関係 社会性	子どもを一人の人間ととらえ、その人格を尊重することで、信頼関係を築くことの大切さと心地よさへの気づきを促します。 支援者集団が良好な人間関係を保つことを重視します。「よき集団の中であってこそ、個は育つ」という考えに基づき、利用者のみならず支援者を含めた集団の関係性に配慮します。 協同する場面を強いたり、無理に目標化したりするのではなく、協同する遊びや活動を、やりたいときにできる環境を整えます。							
家族支援		「子どもを親だけで育てることは不自然であり不可能」「子どもを育てる家族も手助けが必要」ととらえ、レスパイトケアの側面を十分に説明し、家族もまた余裕をもって子どもと接することのできる環境を整えます。			移行支援		児童クラブなどとの並行通所を積極的に促し、子どもの居場所ができるだけたくさん保障されるような手立てをとります。		
地域支援・地域連携		必要に応じて相談支援事業所、学校、児童相談所などと連携します。また、業種や形態を問わず、子どもの発達につながりうる地域資源の発見や掘り起こしに努めます。			職員の質の向上		できる限り余裕をもった人員配置を行い、職員が余裕をもって支援にあたることのできる環境を整えます。無理に必要性の低い会議や研修などは行わないことで、職員のやりたいことを実践できる環境を整えます		
主な行事等		お誕生日会、クリスマス、夏祭り、調理体験、乗馬体験など							